

1. 実際の授業で児童がつくった作品例

①<民謡音階の3音 ミソラの作品例1>

Aさん Bさん

反復 呼びかけとこたえ

Aさん Bさん

- ・ABAC型 Aさん アーティキュレーションの工夫 音の長さの変化を付けている。  
Bさん 後半2・3拍目は反復 それ以外のリズム、音の動きに変化を付けている。

②<民謡音階の3音 ミソラの作品例2>

Aさん Bさん

反復 呼びかけとこたえ

Aさん Bさん

- ・ABAC型 Aさん 前半と後半のリズムの変化  
Bさん 前半4拍はAさんの旋律の反復。2回目後半 ラソミ○→ラミミ○ に変化。

③<都節音階の3音 ミファラの作品例1>

Aさん Bさん

呼びかけとこたえ リズムの反復

Aさん Bさん

- ・ABCD型 全て違う旋律。 Aさん 八分音符の動きを部分的に加えている。2回目はファで終わる。  
Bさん リズムは四分音符のみだが、音の動きに変化をつけている。

④<都節音階の3音 ミファラの作品例2>

- ・ABBA型 2人の旋律が呼びかけとこたえの形になっている。相談してそのように工夫した。  
さまざまにつなげ方を試し、ABBAの順でつなげることに決めたとのこと。  
Aさん 二分音符を生かした旋律。やや1拍目をスタaccart、2拍目をアクセント気味で。  
Bさん 答えるような旋律の動きにこだわる。

⑤<都節音階の3音 ミファラの作品例3> ※派生音を使用した事例

- ・ABAC型 Aさん ミファラ以外のソ#を加える。  
Bさん 後半3拍は反復。前半4拍の動きを変化。

\*その他児童から出た工夫 一部で2音を重ねて演奏する。  
派生音として ファ#の使用。

ルール以外の音を使いたいという児童の発言には、「それぞれの3音らしさがなくならないように3音以外の音を使いたいときは、8拍の中で1~2回だけ入れよう」と声掛けをしました。また8拍目の休符、ミの音で終わるといったルールも強制するものではなく、学習を進めるなかで、ミ以外の終わりの音で即興的に表現する児童が見られた際に、学級全体で「ミ・ラの音であれば終わりの感じがするね」などと確認をして、ルールを少しずつ広げていきました。

2. 授業後の児童の振り返りから ※ ()内は教師の聞き取りによる補足

- ・(わらべうたや旋律づくりの) べんきょうをする前より、音楽がとくいいになった気がします。〇〇さん(ペアで活動した友達)とキーボードをえんそうして楽しかったです。
- ・(3音の)音がすごくどくとくでした。シートのみどり(ミソラの3音)がつかいやすかったです。わらべうたのようなせんりつがすぐにできました。
- ・べんきょうする前はどんなせんりつをつくらうかなと思っていたけれど、けっこうおおくアイデアが思いう

かびました。

- ・キーボードのせんりつづくりがとても楽しくて、毎日かんがえて家のピアノでれんしゅうして（はっぴょうが）できた時は楽しかったです。
- ・とりくむ前は、曲がつかれるかなとふあんでしたが、友だちと考えていがいと上手に曲をつくることができました。みんなできょうりよくすると、こんなふうにできるのだなと思いました。
- ・私がえらんだシートはオレンジ（ミファラの3音）で音がおもしろかったのでえらびました。（旋律をつくって表現）できるようになったことがうれしかったです。
- ・キーボードでせんりつをつくる時、むずかしそうだと思ったけれど、シートがあったのでけっこうかんたんにできました。
- ・シートがあると、どこをひけばいいかすごくよくわかりやすかったです。キーボードの音のくみあわせをかえると、すごくかわることがわかりました。
- ・ミソラで音楽をつくる時に、ペアの〇〇さんがアドバイスをくれて、せんりつがすてきになって「ありがとう」と思いました。
- ・みどりシート（ミソラ）は明るいかんじで、オレンジシート（ミファラ）はくらいかんじの音がしました。キーボードでせんりつをつくる前はむずかしそうだとおもったけどやってみたらかんたんでした。
- ・わらべうた（の学習）でいろいろなことができるようになったから、ひまなときに家でもやっています。
- ・いろいろなせんりつをつくって、とても楽しかったです。みどりのシートでつくったせんりつが気に入りました。
- ・自分のつくった曲をみんなにひろうできてうれしかったです。
- ・キーボードはピアノみたいでむずかしそうだと思ったけれど、やってみるとかんたんでおもしろかったです。もしかしてピアノもかんたんなのかなと思いました。あのシートがあったからおもしろかった気がします。

### 3. 本実践を終えて

導入のわらべうたの活動から、他の題材以上に児童の興味・関心の高さを感じました。旋律づくりの活動では、鍵盤器楽の演奏活動で技能的にCと判断される児童も関係なく、むしろそういった既存の曲を鍵盤楽器で演奏することが苦手な児童こそ、どんどん自分の思いを即興的な表現を重ねて音楽として形にしていき、自分自身の旋律をつくっていたように思います。音楽科におけるさまざまな領域・分野の学習から、児童の一人一人のよさを見取る大切さを改めて実感し、自分自身の日頃の指導を振り返る機会にもなりました。1か月以上経った今でも、「旋律づくりの活動をまたやりたい！」という声が児童から聞かれますので、ぜひ続けてさまざまな音楽づくりの活動に挑戦していきたいと思います。